平成２９年度国立天文台研究集会開催報告書

平成29年08月23日

国立天文台長　殿

代表者	氏　名	（ふりがな）たにもと　あつし 谷本　敦
	所属・職	京都大学・博士課程1年
研究集会名	第47回天文・天体物理若手夏の学校	
開催期間	平成29年07月25日　～　平成29年07月28日	
開催場所	長野県千曲市上山田温泉　ホテル圓山荘	
参加人数	317名	
研究集会の概要	天文・天体物理若手夏の学校(以下、夏の学校)は、天文学・宇宙物理学を専門とする大学院生が参加する滞在型研究会です。夏の学校は、若手研究者に発表の機会を与えること、若手研究者の知識を深めること、そして若手研究者同士の交流の場を与えることを目的としています。運営は大学院生によって行われ、全国5つの地区の大学・研究機関の5年持ち回り制です。第47回夏の学校は、京都大学に事務局が設置され、大阪府立大学、甲南大学、奈良女子大学の学生が運営し、7月25日から28日までの4日間、長野県のホテル圓山荘で行われました。今年度の参加者数は、大学院生300名、招待講師17名の合計317名となりました。 夏の学校では、【重力・宇宙論】【コンパクトオブジェクト】【銀河・銀河団】【太陽・恒星】【星間現象】【星形成・惑星系】【観測機器】の7個の分科会で、口頭講演とポスター講演を行いました。口頭講演では、発表の質を向上させる為に、各分科会の座長団によって講演概要に基づいた振り分けを行いました。ポスター講演では、全体ポスターセッションの時間を設け、ポスター会場でも活発な議論が行われていました。また、今年度もオーラルアワード・ポスターアワードを導入しました。優秀な口頭講演者、ポスター講演者にはそれぞれアワードを授与し、最終日に再度講演を行って貰いました。さらに、大学院生が研究発表をするのみならず、最前線で研究を行っている研究者の方々を招待し、各分野のレビューや最新の研究結果を紹介して頂きました。今年度の講演数は、口頭講演142件、ポスター講演138件、招待講演13件の合計293件となりました。 夏の学校では、各分科会に加えて参加者が一堂に会する全体企画を設けています。今年度は、全体企画として「院生の未来を並べてみる～アカデミック？民間就職？～」を行いました。本企画は、多くの大学院生が悩む様々な進路を直接比較・検討する場を設けることを目的としました。本企画では、院生時代に天文学・宇宙物理学を専門としており、アカデミックに進まれた方や民間企業に就職された方をお招きし、パネルディスカッションを行いました。各進路に進んだ場合の収入、仕事内容、天文学の経験が活きているか、何故その道を選んだのか、プライベート等について語っていただきました。また、本企画ではTwitterを用いてリアルタイムで質問を募集しました。その結果、非常に多くの質問が寄せられ、大学院生の関心の高さが窺えました。	

研究集会の成果	今年度の参加者は大学院生300名、招待講師17名の計317名となりました。また今年度の講演数は、口頭講演142件、ポスター講演138件と非常に多くの若手研究者に発表の機会を与えることが出来ました。今年度夏の学校では、伝統を踏襲し合宿形式で行いました。その結果、参加者の間に自然と一体感が生まれ、分科会では活発に質問が飛び出し、食事時間や分科会の合間にも活発に議論が行われていたことが印象的でした。特に、3日目に行われた懇親会では、異なる大学、異なる分科会の参加者同士が交流を深めている様子や、また招待講師の方々と研究について、もしくは将来のことについて議論している様子が見受けられました。また、最終日のオーラルアワード・ポスターアワードの受賞講演についても、多くの参加者が講演を聞きに来ていました。以上の通り、夏の学校の、若手研究者に発表の機会を与え、若手研究者の知識を深め、若手研究者同士の交流の場を提供するという目的は十分に達成されたと考えております。 今年度の夏の学校事務局は、京都大学に設置されました。近年、規模の拡大に伴い、事務局の負担増加が課題とされています。そこで今年度は、今までの仕事の大幅な見直しやスケジュールの変更を行いました。その結果、例年問題視されていた事務局の負担は大きく軽減されたと考えております。また、当日の要員は京都大学以外の運営地区の大学院生(大阪府立大学・甲南大学・奈良女子大学)にも依頼しました。このように夏の学校の運営を行う中で、参加者のみならず事務局員も様々な大学院生と交流を深めることが出来ました。さらに、夏の学校期間中には、九州大学・東北大学を中心とする来年度の夏の学校事務局への引き継ぎを行いました。今後も可能な限り事務局の負担を軽減し、夏の学校が大学院生・研究者、ひいては天文学・天体物理学コミュニティー全体にとって、より良いものになるよう継続的に議論していく必要性を感じました。
その他参考となる事項(希望事項も含む)	夏の学校では例年、財源の不足している研究室・研究機関に所属する参加者に対し、旅費補助を行っております。貴天文台からの補助金は参加者20名の旅費に充てられました。参加者へのアンケートの結果、旅費補助について必要であると回答した参加者は多数に上りました。夏の学校のような滞在型の研究集会は、若手研究者同士の交流を促し、また各々の研究の発展に繋がっていくことが期待されます。夏の学校事務局としても、全体の旅費を抑える為、各地からの交通の便が良く、また参加者の多い関東圏から近い、長野県のホテル圓山荘を会場として選定しました。以上のように、若手研究者にとって有意義な研究会となっている夏の学校を今後も安定して開催していく為に、旅費補助は必要不可欠なものです。そして、旅費補助は貴天文台の補助金に大きく依存しており、今後も継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。 最後になりましたが、我々夏の学校事務局及び旅費補助を受けた参加者を代表致しまして、この場で貴天文台のご支援に心から感謝致します。